

	子宮内膜症	子宮腺筋症	子宮筋腫
病気の内容	異所性子宮内膜の子宮外増殖病変	子宮筋層内での異所性子宮内膜の増殖病変	子宮平滑筋細胞の増殖による腫瘍病変
発生するもの	子宮内膜と似た組織	子宮内膜と似た組織	子宮の筋肉にできる良性のこぶ
発生場所	卵巣 → 卵巣チョコレート嚢胞 骨盤腹膜 → 腹膜病変 ダグラス窩(子宮と直腸の間に存在する腹膜腔の一部) → 深部子宮内膜症 腸、肺やへそ、膈、外陰部、リンパ節 他 → 他臓器子宮内膜症	子宮の筋層内 筋層内に内膜組織が入りこむことで、子宮が肥大する 病巣は、局所・全体どちらもあり	子宮の内側 → 粘膜下筋腫 子宮の筋肉の中 → 筋層内筋腫 子宮の外側 → 漿膜下筋腫
発生原因	詳しくは不明。エストロゲンに依存		
特徴	本来の子宮内膜と同様、エストロゲンの影響を受け、月経と同じサイクルで増殖や出血を繰り返すが、子宮以外で増殖した内膜や血液は体外に排出することができないため、月経毎に炎症を起こす。		良性の腫瘍のためそれ自体が生命を脅かすものではないが、放置すると10kgを超える大きさになることがある。 複数個できることが多く、数や大きさはさまざま。
年齢・頻度	25-35歳の生殖年齢を中心に発症し、月経のある女性の10%にあると言われている。ピークは30歳頃。閉経するとしぼむ。	発症のピークは40歳代。閉経により症状はなくなる。約3割の女性が内膜症も併発。	30歳以上の20~30%、50歳までに最大75%の女性に認められる。最も多いのは40歳代。閉経後は一般的にゆっくりと縮小する(10%程度)が、自然消失することはない。
放っておくと...	卵巣の中にできると、古い血液が溜まって腫れる「卵巣チョコレート嚢胞」となり卵巣機能が低下 卵巣チョコレート嚢胞は年齢が高くなると、卵巣癌に変化する確率が高くなる。頻度は約0.7% 卵巣と腸などの他の臓器との癒着	腺筋症自体は悪性ではなく、子宮腺筋症からの子宮体癌発生の報告は極わずか	粘膜下筋腫(子宮の内側にできる)は不妊と原因となる 筋層内筋腫(子宮の筋肉の中にできる)は大きくなると早・流産の原因となる まれに子宮筋腫が悪性化することがある
主な症状	月経痛、排便痛、性交痛、慢性痛、不妊	月経痛、過多月経、貧血、不妊、不育	月経痛、過多月経、過長月経、腹部腫瘍触知、貧血、頻尿、排尿困難、便秘、腰痛 ※できる場所や数によって違う。 漿膜下筋腫(子宮の外側にできる)→大きくなるまで症状が乏しいが茎部がねじれると激痛をおこすことがある。 粘膜下筋腫(子宮の内側にできる)は、小さくても月経痛や過多月経、過長月経などの症状が強度で貧血になりやすい。
不妊との関連	不妊で悩む女性の30-50%に存在すると言われている 卵巣のう胞や腹腔内炎症により卵胞発育の低下、卵子の質の低下、受精障害、 骨盤内癒着により精子、胚の輸送の障害 着床障害	ひどくなると着床しにくくなる	不妊で悩む女性の5-10%に認められるが、妊娠を妨げると考えられるケースは2-3%程度 粘膜下筋腫(子宮の内側にできる)は不妊と原因となる ・粘膜下筋腫から産生される様々な物質が着床を妨げる ・粘膜下筋腫によって内膜が変位したり、血流低下することで内膜が薄くなる
診断方法	内診、エコー、MRI、血液中の腫瘍マーカーCA125	内診、エコー、MRI	内診、エコー、MRI、血液検査